

平成 9 年 1 1 月 1 5 日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

新町、鈴法寺に響いた尺八の音とは

東京都の旧跡指定を受けている新町の鈴法寺跡に現存するのは、9基の石塔だけです。また東にある臨済宗建長寺派の東禅寺の本堂には、市の有形文化財に指定されている文化12年(1815)に鈴法事28世(新町に移って8世)の竹溪和尚の筆による「武叢禅林」の木額があるのみです。しかし、江戸初期、吉野織部之助による新町開村当時、鈴法寺は普化宗活総派の本山として、尺八を吹く虚無層の姿で全国にその名を知られる寺でした。その鈴法寺の開山月山養風禅師は、普化宗を日本で初めて興した法燈国師心地覚心から数えて20世を継ぐ和尚でした。また織部之助との出会いも運命的なものでした。新町開村に必要な井戸を掘るために織部之助は、入間郡柏原村の親戚の家に井戸掘り職人を捜しに来ていました。そこに虚無僧がやって来るなりお互いに顔を見合わせると、織部之助が武蔵国熊谷在忍の城主成田長泰の家臣であったころの朋輩、秋山惣左エ門の子惣太郎でした。戦乱で忍城は落城し離散しての再開でした。そこで織部之助は新町開村の事を話すと、当時川越にあり寺運低迷していた鈴法寺を新町に移転し、宗門発展に寄与したいという月山の思いと織部之助の開村の思いとが合わさり、慶長18年(1613)10月新町の鈴法寺が開創したということです。以来明治4年に太政官布告により廃宗されるまで、法燈を輝かせていたようですが、廃宗後明治26年に火災に会い、上記の様に残されている物はほとんど有りません。しかし明治16年に京都の明暗寺で明暗教会を組織し、普化尺八が復興された曲目が今に伝えられています。その中の「井草鈴法」や「井草清搔」は鈴法寺が川越の伊草に有った頃の曲とされています。

また右にある楽譜は虚無僧が普化宗の寺に来た時や、道で出会った時に吹き合う曲で、呼ぶ側の「呼竹」という曲と、それに応じる「受竹」と言う曲だそうです。

仮に、1尺8寸の尺八で吹いたとしたときの音を五線譜に直すと、下のようになります。鈴法寺では、このようにお互いに尺八で呼び合っていたのでしょうか。

(文責 棚橋)